

# 古墳時代のデザインとモチーフ

原田悠希

## 1. はじめに

古墳時代は古墳をはじめ、様々な生産活動がおこなわれた。土製品ひとつをとっても、土器（土師器・須恵器）、埴輪（円筒・建物関係・武具・人物・動物等）、土製品（模造品、ミニチュア土器）と多種多様にわたる。それらには時期、地域、目的に応じて様々なデザインで製作され、モチーフが存在する。

## 2. 古墳時代のデザインとモチーフ

中区所在の金蔵山古墳からは古墳各所より様々な遺物が出土している。材質でいえば、土、金属、石材に分けることができる。ここでは、埴輪、土製品、石製品に焦点をあててデザインとモチーフについて考えてみたい。

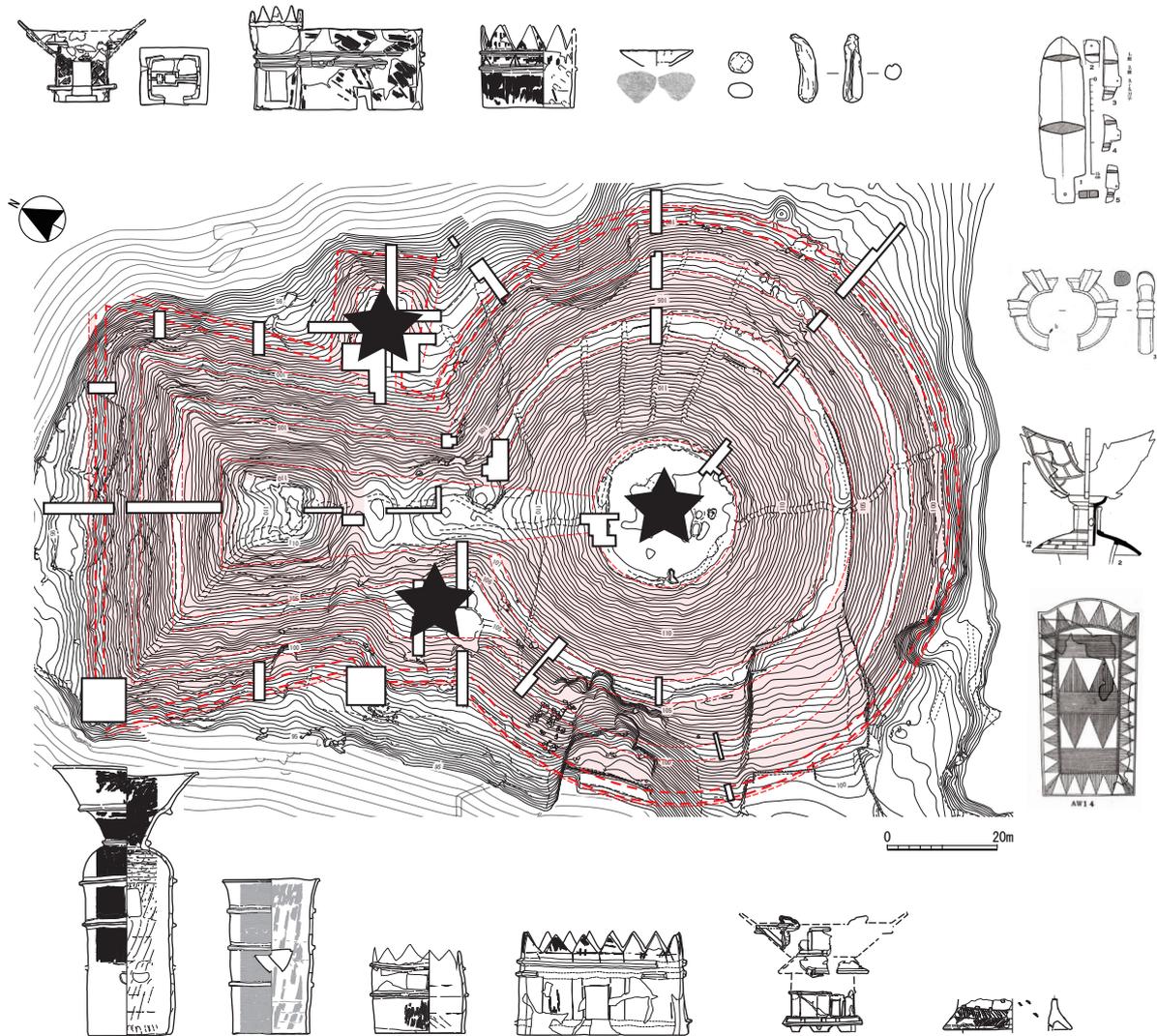


図1 金蔵山古墳から出土した遺物の一例

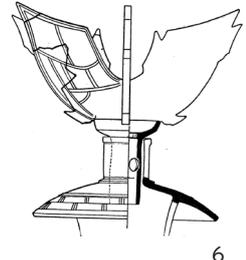
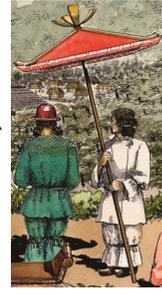
図1～4,6,7 西谷眞治・鎌木義昌 1959 『金蔵山古墳』倉敷考古館

安川満・寒川史也 2019 『金蔵山古墳 - 範囲確認発掘調査報告 -』岡山市教育委員会

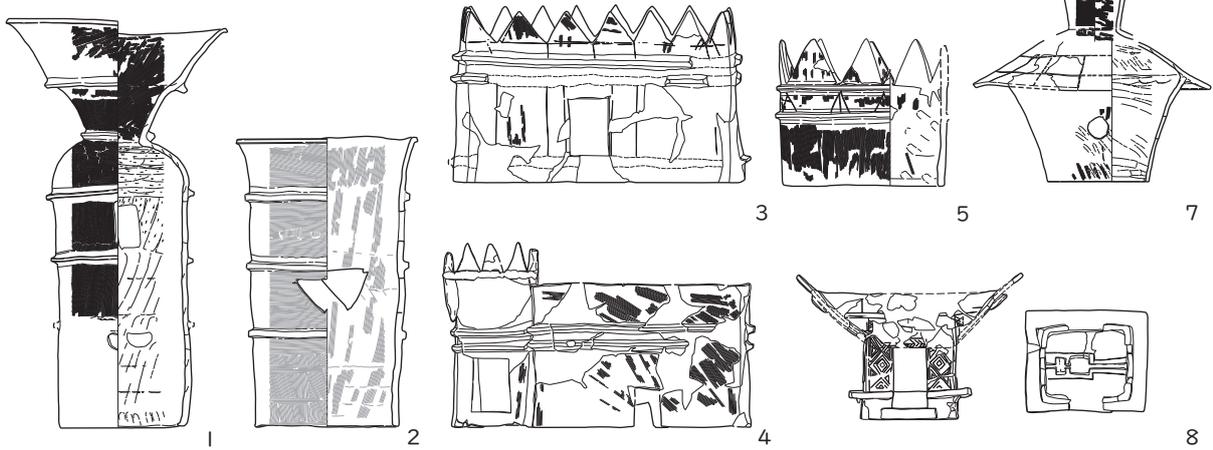
## 2-1. 埴輪のデザインとモチーフ

古墳の中の造形物と言えば埴輪を思い浮かべる人は多いでしょう。形象埴輪と呼ばれるものは古墳時代前期に出現し、地域、時期によって様々なものが製作されました。人工物（家、囿、柵形、船等）や武具（盾、甲冑、大刀、鞍等）、動物（水鳥、馬、鹿、猪等）、人物（武人、巫女、力士等）と当時の風俗、生活様式、祭祀等の有様を垣間見ることができます。

金蔵山古墳からは各地点から様々な形の埴輪が出土しています。同じ形式でもその形は異なります。

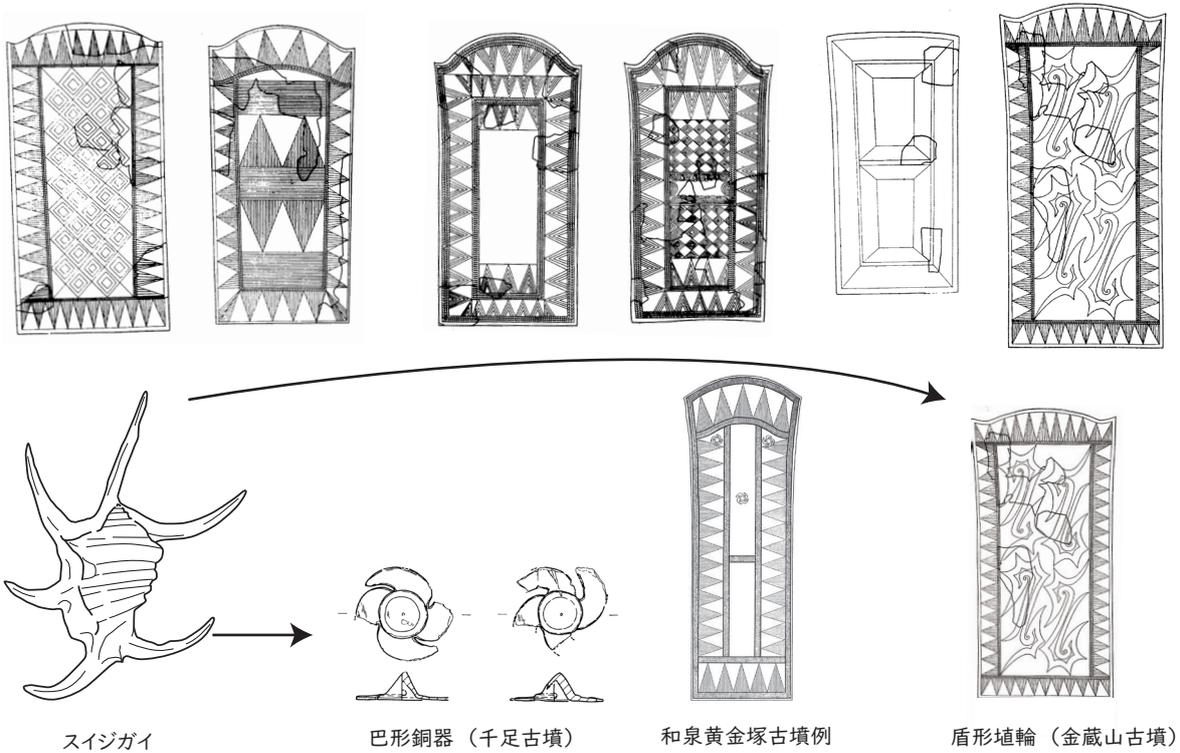


6



1：朝顔、2：円筒、3,4：囿、5：柵、6,7：蓋、8家（導水施設）

図2 金蔵山古墳出土形象埴輪



スিজガイ

巴形銅器（千足古墳）

和泉黄金塚古墳例

盾形埴輪（金蔵山古墳）

図3 盾面のデザインとモチーフ例

## 2-2. 土製品のデザインとモチーフ

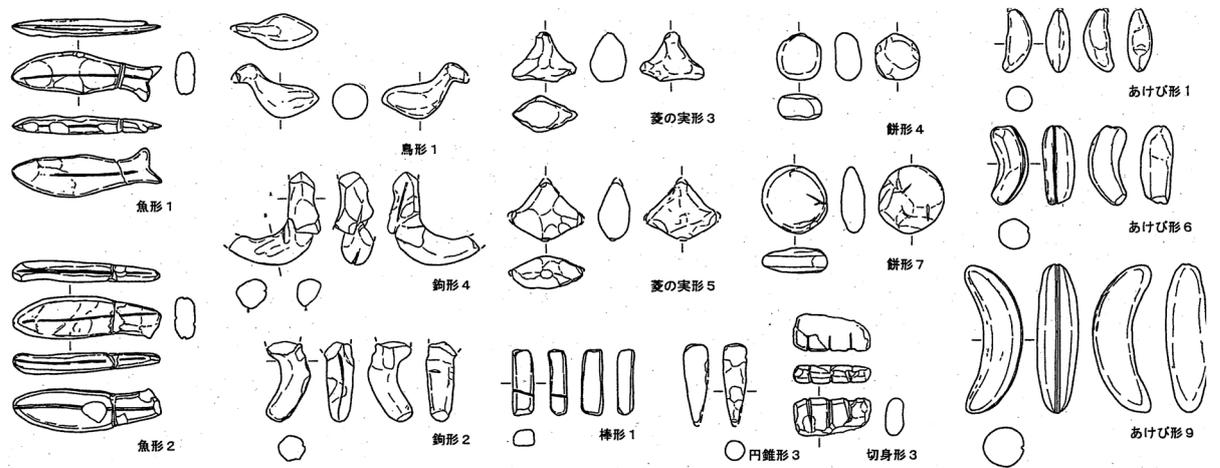
古墳ではしばしば、小形の土器や笱状の文様がつた土器、食物を模造した遺物が出土する。これらは、葬送儀礼に伴って使用されたと考えられる。土製品には魚や鳥といった動物、あけびや菱の実といった植物の実を模したものがある。笱形土器は笱状の形の小型土器で底面を観察すると網目を確認することができる。

これらの土器はセットで使用されており、笱形土器、もしくは土師器に載せていたとされる。

金蔵山古墳からは墳頂と島状遺構から各種出土している。



図4 笱形土器



行者塚古墳西造り出し土製品の種類

図5 食物形土製品の種類

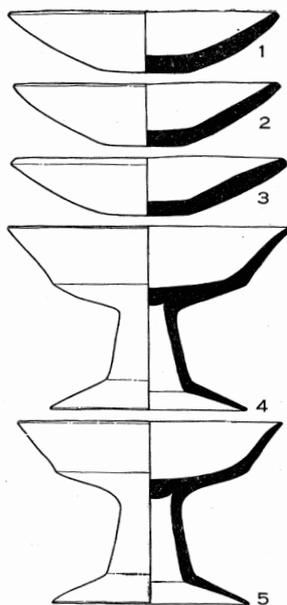


図6 墳頂部出土 笱形土器、高坏

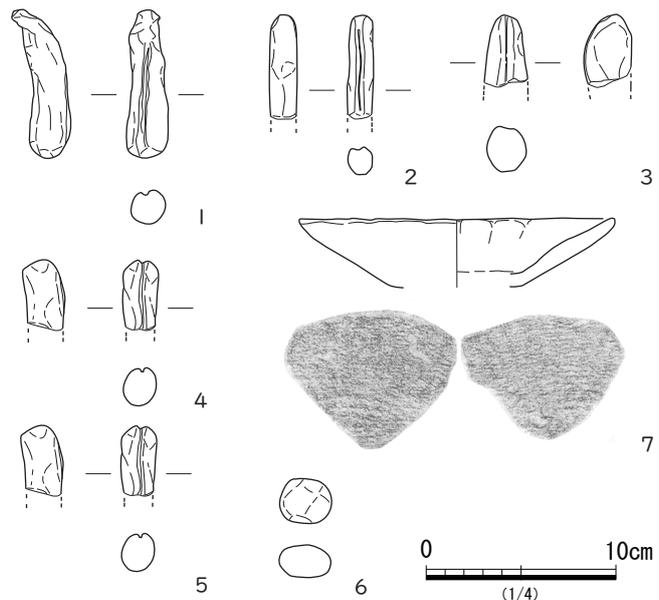


図7 島状遺構付近出土 食物形土製品、笱形土器

### 2-3. 石製品のデザインとモチーフ

古墳時代につくられた石製品の多くは元の形を追うことができる。腕輪形石製品は貝輪をモチーフに製作されている。金蔵山古墳から出土した環頭形石製品は刀剣の柄頭部分を、滑石製模造品は剣、刀子、鎌をモチーフにしている。その他では斧頭や鑿、鉈、盾、甲冑、鏡、椅子、履物、合子、盤等がみられる。

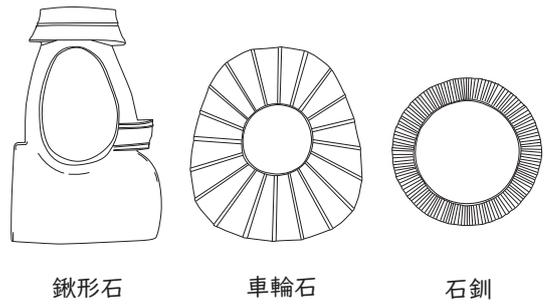


図8 腕輪型石製品

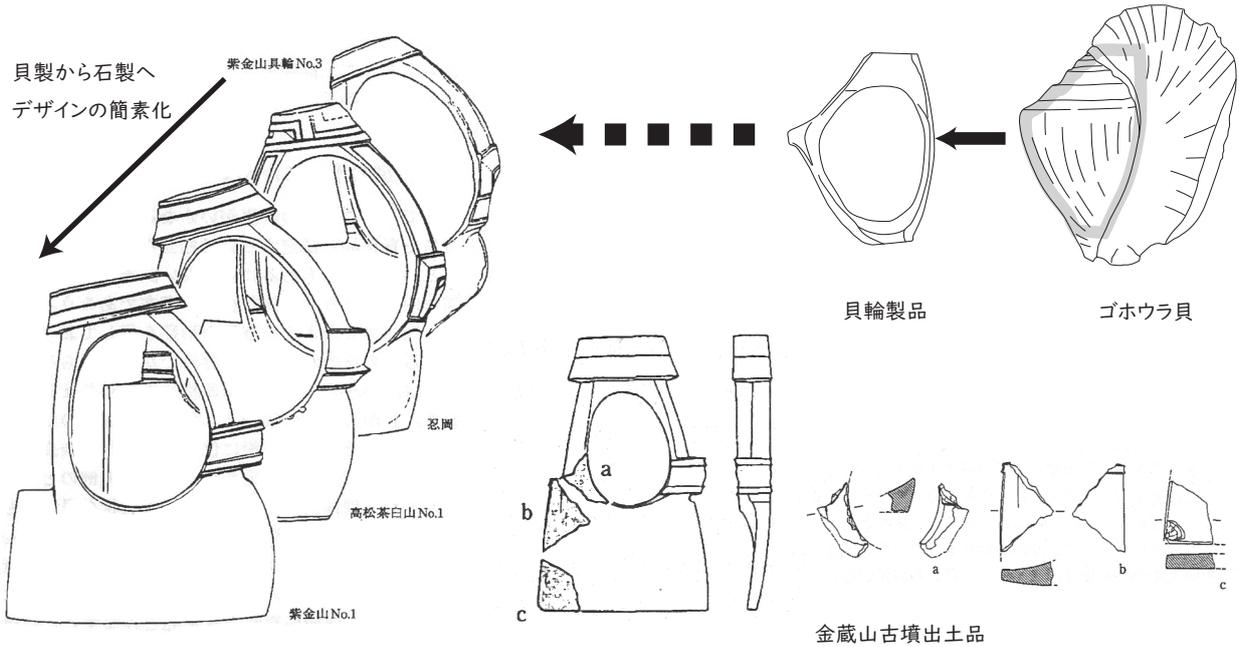


図9 鍬形石とモチーフ

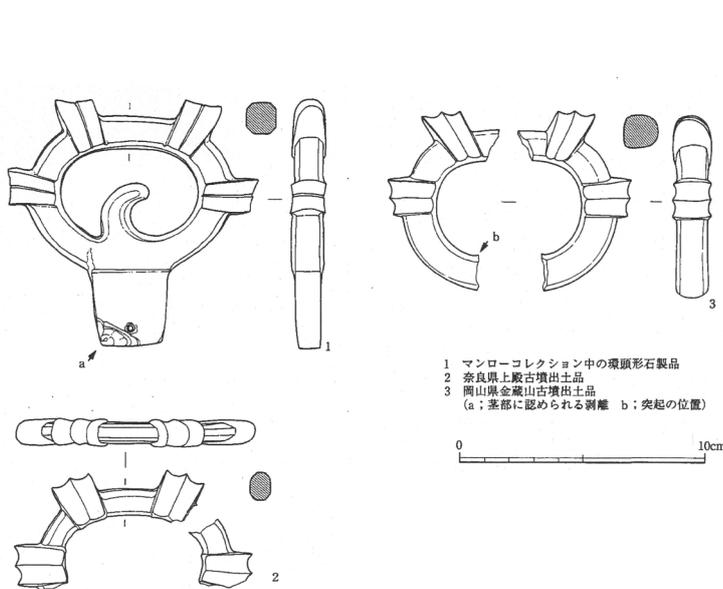


図10 環頭形石製品

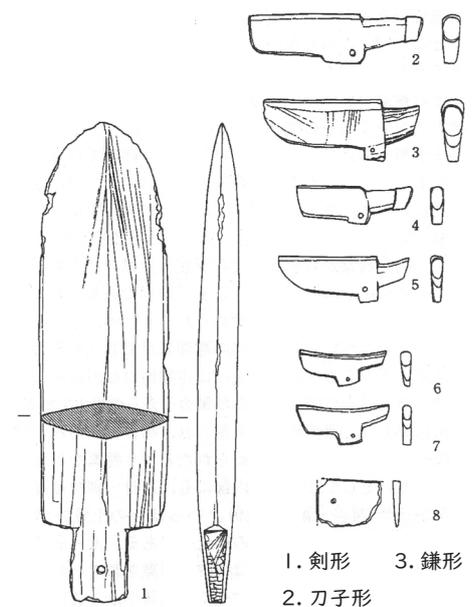


図11 墳頂出土滑石製模造品